

默想：三位一体の主日

黙想のテーマ：「聖三位一体はわたしたちの魂の中に住んでおられる」「御父と御子と聖靈の愛」「聖靈はわたしたちをキリストと御父に導かれる」

聖三位一体はわたしたちの魂の中に
住んでおられる

御父と御子と聖靈の愛

聖靈はわたしたちをキリストと御父
に導かれる

至聖なる三位一体の祭日は、復活祭の間にわたしたちに啓示されたこと、すなわちキリストの死と復活、御父の右の座への昇天、そして聖靈降臨における聖靈の注ぎ、すべてを包含しています。この祭日の典礼は、イエス・キリストによってわたしたちに示された聖三位一体を賛美し崇拜することから始まります。

「全能の神、父と子と聖靈にとこしえの賛美。神はわたしたちにいつくしみを示してくださいさった」（入祭唱）。聖三位一体は神の存在についての神秘であるだけではありません。それは特別な意味で、世界と私たち一人一人に対する神の深い愛の神秘でもあります。

「わたしは父と子と聖靈のみ名によって、あなたに洗礼を授けます」と司祭はわたしたちの頭に三度水を注ぎながら言います。聖ヒラリウスは次のように述べています。「イエスは父と子と聖靈の名によって洗礼

を授けるように命じられた。それは、創造主と独り子と賜物と呼ばれる方への信仰を告白することによってなされる。すべてのものの創り主はひとりである。というのは、すべてのものがそこから創られたところの父なる神はひとりだから。また、すべてのものがそれを通じてあるところのわれらの主、独り子イエス・キリストはひとりである。また、すべてのものにおいて贈り物であるところの聖霊はひとりである」。〔1〕

聖なる三位一体は、私たちを神の子として、神との親密な結びつきへと導いてくださいました。洗礼の水は、わたしたちのうちに三位一体と結びつく力を与えました。確かに、わたしたちはその愛の関係のために創造されました。父と子と聖霊に栄光を帰すためです。聖ホセマリアは黙想の時に次のように語りました。

「わたしが何度も言ったことを覚えているでしょう。神は恩寵のうちに

わたしたちの魂の中心におられます。わたしたちは皆、主である神と直接つながっています。人々の間で行われる比較は、その素晴らしい神聖な現実と比べてどれほど価値があるのでしょうか？一方、つながりの向こう側には、御父と御子と聖霊という聖三位一体がわたしたちを待っておられます。神の位格の〈ひとつ〉が存在するところには、他の〈ふたつ〉も存在します。わたしたちは決して一人ではありません」。

[2]

わたしたちは神の名において洗礼を受けました。十字架のしるしを自らの上に記すたびに、この名を思い起こします。聖体祭儀は十字架の印で始まり、十字架の印で終わります。そして、祈り始めるときも祈り終えるときも同じことをします。家に出

入りするときや、その他さまざまな瞬間に十字架の印をする習慣がある人もいます。「十字架の印と神の御名のうちには、信仰を生み出し、祈りを力づける知らせが含まれています」。[3]

聖パウロは思い起こさせます。「希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖靈によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです」（ローマ5・5）。時が満ちたとき、神は、聖靈なる神の恵みによって、子なる神の贖いを通して、わたしたちを父なる神の子とするために、神の親密さをわたしたちに示すことを望まれました。神の愛はわたしたちの救いと聖化の業を続けています。カルカッタの聖テレサは、ある日、路上で潰瘍に覆われた老婦人を見つけ、彼女の体を拭き始めました。すると老婦人は尋ねました。「なぜこんなことをするのですか？人々はこのようなこ

とをしません。誰に教えられたのですか？」聖テレサは、「わたしの神がわたしに教えてくださったのです」と答えました。老婦人は「その神は誰ですか？」と尋ねました。そして聖テレサは簡潔にこう言いました。「あなたはすでにわたしの神を知っています。わたしの神は愛と呼ばれています」。

神は愛である。その神は単一の位格ではなく、実体として一つである三位一体の神です（叙唱参照）。「この愛は、感傷的な愛でも、感情的な愛でもありません。それは、あらゆる生命の起源である御父の愛です。十字架上で死んで復活した御子の愛です。人類と世界を新たにする聖靈の愛です」。神は遠く離れたところに住んでいて、人類の運命に無関心な孤独な存在ではありません。神はわれわれの家族であり、われわれに注がれている無限の命の源です。

イエスは最後の晩餐の会話の中で、弟子たちを慰め、力づけるために聖靈が送られることを約束されました。主は聖靈を真理の靈と呼びます。「その方、すなわち、真理の靈が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである」（ヨハネ16・13）。聖靈は救い主のメッセージに新しいことを付け加えません。「その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである」（ヨハネ16・14）。イエスは御父から聞いたこと、受け取ったことだけをわたしたちに語られます。

「聖靈はキリストの代弁者です。聖靈はわたしたちをキリストから遠く離れた別の場所に導くのではなく、

わたしたちをキリストの光へとさらに深く導いてくださいます」。〔5〕

ナジアンゾスの聖グレゴリオスは言っています。「旧約聖書は、御父を明瞭に、御子を漠然と告げ知らせました。新約聖書は御子を明らかにし、聖靈の神性を垣間見せました。今や、聖靈はわたしたちの間ではっきりと認められ、わたしたちにご自分をはっきりと示しておられます」。〔6〕弁護者である聖靈は「信者たちに、それぞれが理解できるすべての靈的真理を教え、すでに知られているものを愛し、まだ知られていないものを求める愛の心を燃やすように促します」。〔7〕

「聖靈の働きを伴ったこの愛は、地上と聖靈を歓迎するすべての人間の心に新しい光を照らしました。それは、わたしたちが愛と憐れみの良い実を結ぶことを妨げている暗い隅、困難を明らかにする光です」。〔8〕香

水の瓶が割られると香りが至る所に広がるように、キリストの体が十字架上で碎かれたとき、キリストの靈がわたしたちの心に注がれました。

[9] わたしたちは、人生に意味を与える愛を体験し、それを証しするためには、三位一体の交わりに入ることができますように、神の娘、母、花嫁である聖母マリアにお願いします。

[1] 聖ヒラリウス、*Treatise on the Holy Trinity*, Book 2,1,33.35.

[2] 聖ホセマリア、説教のメモ、1972年12月8日。

[3] ベネディクト十六世、「お告げの祈り」でのことば、2010年5月30日。

[4] フランシスコ、「お告げの祈り」でのことば、2013年5月26日。

[5] ベネディクト十六世、説教、
2005年5月7日。

[6] ナジアンゾスの聖グレゴリオ
ス、 Discourse 31、25-27 (PG 36、
159)。

[7] 聖アウグスティヌス、Treatise
97.1 (On the Gospel of Saint
John)。

[8] フランシスコ、「お告げの祈
り」での言葉、2017年6月11日。

[9] 聖ヒッポリュトス、Commentary
on the Song of Songs 13.1参照。